

社会教育の振興による活力ある まちづくり・地方創生！

金沢大学提供
作成日 2016年4月20日
更新日

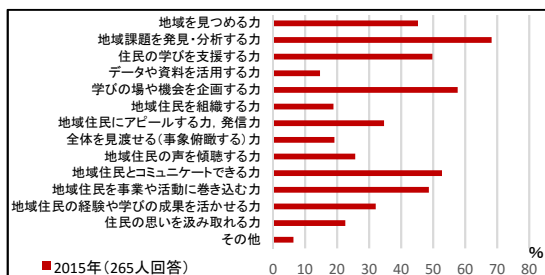


| | | |
|---|-----------------------------------|--|
| 研究者氏名 あさ の ひで しげ 浅野 秀重 | 所属機関 金沢大学 地域連携推進センター | 関連キーワード 社会教育、社会教育主事講習、9単位社会教育主事、公民館、まちづくり、地方創生 |
| 主な研究テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校校歌の研究 ・ 公民館等の地域コミュニティ施設の役割とまちづくり ・ 市町村民憲章・自治体総合計画と地域の活性化 ・ 住民の学習活動による地域課題の可視化 など | | 主な採択課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤研究(C)平成20～22年度(配分総額:2,080千円) 課題名「震災復興に向けた地域コミュニティ再生のための社会教育事業の在り方に関する研究」 ・ 基盤研究(C)平成27～29年度(配分総額:1,950千円) 課題名「『9単位社会教育主事』養成に果たす社会教育主事講習の意義と今後の課題に関する研究」 |

① 科研費による研究成果

- ・ 地域住民は、公民館等の地域コミュニティ施設を好意的に理解するなど、公民館等はまちづくりに大きな「底力」を発揮している。
- ・ 昭和59年度以降の金沢大学実施の社会教育主事講習受講者650人に「社会教育職員に期待される『力』は、何だと思うか？」と質問すると、265人から回答(回収率40.8%)を得、上図のように「地域課題の発見・分析力、学びの場や機会の企画力、地域住民とのコミュニケーション力」などが上位となった。
- ・ 公民館等の社会教育施設の職員には、地域住民に、学習活動を通じて、地域を、見る、観る、覧る、診る眼や判断力を育てる役割が期待されている。そうした職員を養成する重要な機会の一つが「社会教育主事講習」であり、この研究では、講習を通じて養成される、「9単位社会教育主事」(浅野提起)としての社会教育職員が、講習で得た学びの成果(社会教育的視点)をその後の職務等でどのように豊かに発展させていったかや講習の課題、講習への期待などを調査やヒアリング等を通じて明らかにすることとしている。

問い 社会教育職員に期待される「力」は、何だと思うか？



平成27年度 金沢大学社会教育主事講習 開講式

② 当初予想していなかった意外な展開

調査では、「社会教育に関する仕事をどう思うか？」という問いも設けた。「地域住民の学習意識の向上に貢献する仕事」への回答が上位を占めるのではないかと予想していたが、これに対しては、142人 53.6%という結果で必ずしも上位ではなく、「地域住民のつながりづくりに寄与している仕事」(197人 74.3%)、「地域づくり・まちづくり・地域活性化に寄与する仕事」(177人 66.8%)との回答が上位を占め、社会教育と「つながり」や「地域づくり」との牽連性を示す結果であった。

また、左の①で見た期待される「力」で、特に重視すべき「力」を重要度順に5つ選択する問いに対し、最重要として「地域課題の発見力」を挙げた者が71人、「地域を見つめる力」は55人に対し、「学びの場や機会の企画力」は、19人にすぎなかった。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・ 社会教育は、主として成人を対象にした営みであり、大人育て、大人育ちの領域ととらえることができ、その重要な推進者・支援者が「学びとまちづくりのコラボレーター」的存在(浅野提起)としての社会教育職員であり、「社会教育主事講習」及び「9単位社会教育主事」を対象としたこの研究を通じて、今後のまちづくり・地方創生にいささかなりとも貢献したいと考える。